

思考を、連想を基盤としてずっと考えてきました。しかし、作曲の時なんかは、自然に曲が頭に響いてきて、それを少し手直ししながら、最終の曲にまとめるという・・・そんな、連想とは関係なしに浮かぶものが思考にはあるのではないかとも思えるのです。

夢なんかでもじっと考えていると、妙なものが目に浮かび、それを種に夢が進展して行くというような体験を得ます。決して、連想の連鎖だけが脳の思考の方法であるとは言い難いことです。

こう考えたらどうでしょうか。種はある。雪の結晶ができるときにも種が必要なように、なにかこう曲想というものがある。既存の曲のどこかを変形して、新しい曲の種にする。そうして、その種を基盤にして、作曲の技術を駆使して、最終的な形態にする。それが作曲の局面ではないでしょうか。

あるいは、バイアスが掛かっている場合もあります。人工知能を必至に考えていますと、夜夢に見たりします。奇想天外な夢ですが、人工知能を考えているという夢。これは、連想の代わりに、バイアスが掛かったコンセプトセットがあって、そのなかで、ランダムに組み合わせが生じるからではないでしょうか。

思考の種は、構造があるコンセプトの組み合わせです。画像イメージであったり、曲であったり、言語であったり、組み合わせが大事なものが基盤に見えます。その組み合わせが、今要求している事柄に合致しているとき、不意に意識下に現れるのではないのでしょうか。

思考の基盤は無意識下で、コンセプトを様々な組み合わせで試すものだと思います。